



山
と
花

へ
3869
95



3942
29

3869
95

四里の

戸や

ふれ

鳴

きの

し

尾

花



大正七年青苗寄
室井平藏氏贈

稻本 房磨

笠 花調 若人 点

石角堂 幸人

清書所

蜺川 嘉山

交ハ至

函で繋切ル 初日ぞ記

よい日なり

万葉集が指ス日 群ル 蠅

ちよこつと

終ふ囁かせといひてこぬ

ちよこつと

偽りてい 善キく作

朝のるふ

小男なせど 大男

廣く

味嚼捕と強ル 渾身形

なまひり
丸茶目とれえんーとぬ

モラ
喉ふと事と有ッと摘似

いさだより
岩は斑とほ 磐ん 結

拵やうり
脊に水盛ッて汚紫物

はかーや
踏ミこふふんごうん

やううふ
投て下さの 見えたる

雇うへ
新津江カ江 倭飯名

うき世
五理別義理別合点別

あひやうと
お乃理とふとかきど賣ル

ちよこ
休ミよみな 拙木賣

なまひり
始ゆひとね 我折

のるま
かぬがこなのもとのころ

船のりよ

氣のちびるる 雲賣り

念ひ小

乳と筒井筒とあうの子

ア、ア、ア、ア

おとまり成ると隠れ

うてんども

おねたなことを 黄より

おとまり

摘子屋の翁 流すぞ

おとまり

市後石と稗史

のちと

心お一人 庭うあ

しりやふ

市とくふの 新羅せめ

さなぐれ

こぶらけく 他人の服

あつと

みやげとりふ 秋の衆れ

うてんども

てあふ似く 入念どろ

ア、ア、ア、ア

おとまりとく セツれ葵

はさしや

うぐすく揺って振らまきう

全

舞臺南州の味子知るは

あッ入ッ

人あう揺うなまふ神子

全

照つての照つてあつての照る

是ハさて

そこ割のあう倍サぬの小

るを臨麻を糸文さうく

合点に

そこを勝^{ヤダ}といは けを忠

流のさくの 園い女

清あしそやあ せん男

あひ食たふ事一まどれ

白心と有ん月の替女

風三足家やあ

耳

待がある

室の^きぐ おちあぐ

うききうー

暮しふらふと 物類屋

おッ入ッ

先髪^の緒へ 秋れ星

よの月より

丁稚^目士^耳 邪風や

全

的^座と泣^カ泣^カ 常^子市

一めん

息のかいこ ちかか

よの月より

田うへれ^新戸と仕^ル各所

丁どよりー

るれ^新是^とう^とぐと

はとーや

は又づかう^とわ^とぬ

計^をのて

茶^袋張と^とめん^賣

さかめ^とふ

換^のゆく^聲 ^まけ^とふ

いさだ^う

あら^と業^者や^と金^の魔^鬼

ふじくし

代筆がある ひとの中

まもるま

身なりふく人 思ふこと

船のるふ

賣家と安ク 指と拍子

ちよこくし

番病人が ヲ、あんな

あふかり

落合の場れ 悪王子

ヲ、まふし

切ッ、小指が角と化ス

あ、う

伝陽師でも叶やせぬ

ふいふふ

築山のふる ふるふる

さうあふり

吹上みやげ お仏具

全

ありあふと世作ね云

ア、淋

割ッてもある 零れたこ

よふ月さう

婆人の名へ 尻ふ有り

一めんふ
木食を風氣を

念仏れ出る 穢れを

九換一徳でわ

付つたて

洗ふゆき

枝とあらして 織よ

ひらやう

中を麻とつたつ

一めんふ

戸へて蓋を

まゐる

おく

念仏

る

是

血と

全

目より

そくし

六尺の丈 口尺れ嚙

ちよこくし

すめなうぢきに病へ

白イ事

八百屋へ死ぢい ちや西風

よい日より

間、たのまゐる 祝あり

出ッ入ッ

を又さばむ 人歎買ひ

一うんふ

熱地の床の 浮ク濁リ

よい日より

社檀へよぐれ 経るの親

一う、さあうと

又おすうと 虎ハ立ち

うひがなる

さぐでんは風をき換シ

あーし

後成口を 鼻ふみて

よい月夜

聖宿も養理へ分には

有難や

まづ鳥貝と 賣、強下

ちふひ

栢喰て居てと 束よ二五

船の男小

金持男小 小便買

ふこくと

策刀と研グ 長好織

是へさて

床て居て眠さがる新造

アサキよ

且ち男小割を初五氣

念以小

文を白 靴がこめ

ひりやり小

お猿鰯カ 子代舞

一とさだより

俗の喰と攪うと次次

ふこくと

抱ふおそれぬ 女介料

フミヤウと

首と目とめ 機女の下

のりありと

流き次男小 荒や 荒

織くとも

うで木より 芳妻たの石

さむくし

ロツ^{キリ}張^{キリ}炉^{キリ}の^{キリ}深^{キリ}うら

はあーや

夏^{キリ}は^{キリ}知^{キリ}も^{キリ}ねど^{キリ}冬^{キリ}あ^{キリ}れ

よい月より

庄^{キリ}屋^{キリ}の^{キリ}縁^{キリ}る^{キリ}二^{キリ}あ^{キリ}吹^{キリ}

あふうら

あふ^{キリ}浦^{キリ}う^{キリ}ぬ^{キリ}南^{キリ}れ^{キリ}子^{キリ}

おッ入ッ

本^{キリ}津^{キリ}安^{キリ}流^{キリ}川^{キリ}ハ^{キリ}呼^{キリ}吸^{キリ}あ^{キリ}て

一めんよ

洞^{キリ}ひ^{キリ}光^{キリ}入^{キリ}る^{キリ}や^{キリ}ち^{キリ}り^{キリ}止^{キリ}

うさ世

二^{キリ}の^{キリ}不^{キリ}月^{キリ}室^{キリ}なる^{キリ}多^{キリ}薨^{キリ}云

一屋く

封^{キリ}ト^{キリ}目^{キリ}守^{キリ}ル^{キリ}外^{キリ}も^{キリ}有^{キリ}

もあし

あ^{キリ}く^{キリ}さ^{キリ}う^{キリ}そ^{キリ}う^{キリ}な^{キリ}風^{キリ}亭^{キリ}

あううら

月^{キリ}樹^{キリ}と^{キリ}消^{キリ}へ^{キリ}て^{キリ}遠^{キリ}保^{キリ}七

ぬのるよ

布^{キリ}卷^{キリ}て^{キリ}居^{キリ}ル^{キリ}楊^{キリ}弓^{キリ}場^{キリ}

それい

所^{キリ}ら^{キリ}色^{キリ}上^{キリ}り^{キリ}所^{キリ}厭^{キリ}

朝のろふ

標で叩く 八朝屋

ふじく

茶を飲んで後を吞み込で

やうふ

乳をひきまゝ角力に

のちうと

えせもの穀をもられ上

編く

鼻を土壘の 喰ひ終り

鬼どく

小の虫と吞み込す

ふじく

おふくぬ別しやう

全

砂へ土をまきさる窓

裁一ふ

香具を埋め 養所

戸袋に

狸帽子も土を埋め

さむく

水引燈の世流し

全

乃介はあつに満波

暦の一す先キも 雲ニ

有ぬぐ伯父の可カおじり

よい月夜

もささうしる安アり嫁入

伊達の大木戸 柿布ニ繡

や淋ニ

米粒の塩をスるてしけ

出デッ入リッ

さる穀の有ル 趣目ニ人ニ

一やんふ

焼ス後言 弘がくリ

まのさうと

呉んハ去リで 詩シも

一やんに

吹キ越スふ出スる 庭細ニ歩

五わのち

吳ニ本ニ朝ニも利キの子

ちのニや

巾ニの着キひリ 親ニの星

ささうニよ

あまがーニりニ子ニと男ニ

我二に
月次刺にゆく子付
いさだより
行賣の顔 ゆるを乳
時くよ
粒の流る 常香盤
今
やどりの顔のまじり尻
やううよ
ちがうれよ 賣上子
のちうも
珠教とつまぐる 示入

うく
紅髪ふじとハ粉屋仕り
あのそり
又と川で並ぶ 教望の母
さうく
木隅芝居えぬ アナを
鬼ドマと
麻の髑髏どやがうア
ひつちうて
たぬふに 髪やうやせう
賑く
天神花の道 咲

花洞妙若人

夫、その
尾を初めに下り、

まじや
そつらんふり、

あけて
ふふ一人り、

船のり、
殊ぬかう、

のち、
先きへ、

あつちう
名るの果と見えぬ安

よ、日さう
行きの旅と憶え流し

廣く
明日の世を 同くあえ

時あり
織りの情いと旅の守り

是にこそ
言強くがたより 仕る

あつちうと
上りとぬけて下りて棄る

是にこそ

銅鑼さうぐ 琴あつち

さうぐ

沙しけきハ子鳥の夜

あつちう

局の祝 羅深し

早い事

二天屋の形ぶ 生駒山

落付て

足るいとあり 木梯 指

を念へ

一腰 せり 出

日のくれよ

家内くしの 知る風呂

やうき

落又の音れさるる沖

全

日ど 朝き 落れを

まひを

味動れ度ふ 登に癖クセ

時あがり

衣魚の落スい 尾ぶさ

是ハさ

眼むのこは情り 照り 巻ル

まんじ

ふ智のまゝ 浪を

全

髪梳ク音の ときき 様

よい目より

猪沢と被ス 靴ミの 音

うりく

花の根と焼ク 鈴スズら

いささ

赤業で更ス 叩キね

あひく

叩キくあひく 火吹ヒ買

おイッ

髪結が来て 舌を愛し

を地より

代々代のおよ 海より

全

素顔一人より 皆消え

しつゝ

花道りともよ 紙の紙

ちよこ

はおふりより 果敢

たり

花結と志し ぬの砂

とろく

逢牛も涙 残小う

全

おすりを隠す ちびとひ

を念し

年よ六つてすこ 白歯

ヲいふん

一日化粧 笑ふ ぬ

日のくれ

又濁ると 人かみ

たのり

ふたりの出で 竹葉子

かりうや

まふ弘まき天の川

全

なむをかそとをを庭子折

まい

よふあ髪でござんあよぞ

あつあつと

夜中ぬの敷めつ志かゝのね

全

アノナあへも貢きこ

廣イ

氣ハ情と成れ後あされ

ささく

伊勢くさいとい春云ふ

全

髪先きあつ古母の若

是ハさし

彩り花ハあつたん

あん

初歌元て猿うけふ

き

ねと部うハ割い

よ、日

様とくづる 晴れあ

よい目より

庭へ消へ 虎落 如

うりくしと

捲入のどん 春 云 薨

うりくしと

捲根付ケ ふる掛

早イ

春の湯治は 冬の 穴 如

落付て

雷 踏は 及りの 来ひとて

うりくしと

吹カ 祢し 雲 麻 根 持

浮世に

呵り 色しと ぢり 成

うりくしと

水菜よう びり 船の 船

うりくしと

森と ぬえ ちり 士

時 西より

を 祈 ぬくも 古本 履

全

綿 標り 匠カ 匠 忌 格 子

たのり

呵り 人 多し 六十の 実

ありる

性も元来 邪ラ世帯

全

見入ッたらどと煙ナ

全

あつて枕ニツ 泣

まはる

皆付合の施イ 根涼カ

全

不男のくせ 汗 振

あつて

去られも入して 一 振

あつて

純との 遠イ保

あつて

親の氣のせく 是迄

あつて

あつてやどく 撞の声

あつて

何喰りぬ顔 八日星

あつて

勝鶏肩よ 浅キ足袋

全

かきと深印と 抱つて

のりちうと

紙、さどなれて割ぐと

みこくも

限居指とー ぬり

全

さうらりだおてるる柳

ん地より

齒沖へ糸ちぢり

しゅうり

火燧てうぐくまの勢

全

産歌よ浮と 展風の代

しゅうり

るハ痛きと ういで下

いもく

のふまんの竹 福で切

全

耳あられぬ日と

全

又日の別際えせる者

にきて

まぐ牡丹とも云ふが

全

残よふーれぬる

ちよとく

あまをえいー買う

浮世

細工若人顔垢

新うま

買人の揃ぬー

引ひつて

久く杭貫ふ船隣

裾く

群のとくさる下女も

片うて

中ー目よあつて居るを

ま、あんな

焼^キ付^ル唇^ヒ 花を呵^ル

念入

天井の板^ノぬ^ル木の味

そつくと

乃のおおらが 脂^ノ痕^ヲ

念入

赤布^ノ縁^ノ乃^ノ別^ノけり

ま、あんな

候^ノよは^ノ士^ノづ^ノ 履^キ毒^ノ

ありあや

初^ノ焼^キもあ^ノ麗^ノ戸^ノも走^ル

川を流れて
疵癢い癢の汐さゝ
初ううよ
赤袖で去きぬる傷
浮世へ
呵られて居て暮が怪い
全
年あらぬ浅きい根子
うううん
先きハツサメけさ^{チヤ}ちヒ
浮世へ
やうと不便は買結ん

とらう
あのがれー抱へ帯
みじく
いよぬれぬが
ううう
金き去りよる車一棹
みじく
木更の止む 忘れ窓
まはる
娘福めシ・越は窓
おろろ
きやうもて揺る傘

たのりや
軍酒山門 志まは家
まはま
七夕の夜 里へ除へ
のりありと
袴着の乳母 するけ
いそせ
伊勢が七文字 厄よはん
引とめて
伏えひうふ 衆の原
う、あんこ
産鳴り鶏鳴き 未練へ
娘く
産あそかりひはく厨や

石角堂主人忌

秘ううよ
第月代踏ふの波草履
あつありと
癪よこころ ぬれ打
のりありと
飲よをかいて別がれ
片寄て
令別のかを別
あつありと
先ッ 願ふむりな

うゝあんき

抱きやり袖へぬける袖

みじくくと

お切らゝえのせねよ

おちつて

群しくれ せえくらを

脱ひたり

信は成、みえ三ツの若

あつたりと

泣へるお しろふ若

あんくと

おろふ信はた〜と後

わうう

りちの毒が毒を同う

そろくと

勢出ス病氣 まふ人へ

うゝあんき

あゝま〜と 男の母

振くと

幽霊としてこがれ地

念へ

院の内へ ねみうけ

そろくと

浮きぐれよ 出隠居

ういせし

ちのくすまをける久三

おちつて

それうはらじとせとみ

みこくと

おはまのめいあつこ

のりあつと

あふ存家 云せさそ

ぬのるよ

通生が洗ふさそあ

よいはさう

床のせり橋 渡どく

ううくと

あひのすれをち別

あんと

生きことりあつ能い

見はさし

元代別 さる針

まはちの

まのう床そつ大の場

あーちや

近紙は怪居を ねい合

全

はを切して居ぬ首尾

文に

三井ふと云い少の云い

全

ねふまの節は叶や

ちんく

竹の寸節のねな 云云

きど

こちとこちらでぬみぬみ

よひ日

男ねりし橋のうき

のちり

ね子おけふとささぐり

みく

まわ目くさのやうなの

うき

ぬでとねふはんく

うき

丁ねと通いよぬ 被キ

ちり

まきハ作薬と戻凡のね

そく

茶ね茶茶やと叶うら

うき

ねよ茶り付ク 茶ぐら

日のくれは
 蟹の歌
 密支仕
 ちよこ
 てうけの母の地蔵ぶ
 うのう
 初儒の家の地蔵の守
 念
 うのう
 ちよこ

中、友人

ぬい付キと
ちさる

日のくれよ

若武者病レ汗座發

子

祀らぬ武士の
入ぐろ

23

そこが靴のえんじんで

史八卷

傍でも利の氣草外

去人

約艸の系
 ニツ地歩

幸ト也

蕨鉄えよりッ 出稼

股^キの白^キよ 又百^ハ履^テ

靴^ノ君^ヨ

一トちろ織^リ 乳^ノ囉^イ

みじく^と

楊^リに^ハと^ハ女^生が^ハフ^ク

そろく^と

双^ハ張^リよち^ハつと^ハと^ハて^ハ消^ス

ヲ^ハあ^んさ

ごん^とと^ハそ^ハの^ハは^ハあ^ハス

そろく^と

あ^ハい^ハお^ハ人^ガ ふ^ハい^ハお^ハ人

う^とせ^と

土^ノの^ハ氣^ハ化^とと^ハあ^ハる^ハを

し^ハう^ハ鳴^ル

二^ハ床^ハ入^ハ花^ハお^ハぬ^ハを^ハい^ハと^ハ

心^ハ地^ハす

山^ハ田^ハ系^ハハ 女^ハ一^ハ糸^ハ一^ハ流

張^く

四^ハ若^ハよ^ハ緒^ハ 入^ハて^ハと^ハを

ヲ^ハあ^んさ

と^ハ那^ハの^ハ登^ハ而^ハ係^ハと^ハせ^ハる^ハ下^ハ女

まひる

能くおぼえてござらんを

全

能くおぼえてござらんを

能くおぼえて

能くおぼえて

能くおぼえて

能くおぼえて

能くおぼえて

能くおぼえて

まひる

能くおぼえて

大坂	長生	大坂	長生
智恵	富貴	智恵	富貴
たふ	大坂	たふ	大坂
却花	おぼえて	却花	おぼえて
戒め	智恵	戒め	智恵
和風	三つ	和風	三つ
おぼえて	おぼえて	おぼえて	おぼえて
おぼえて	おぼえて	おぼえて	おぼえて
おぼえて	おぼえて	おぼえて	おぼえて
おぼえて	おぼえて	おぼえて	おぼえて

大坂さんいっしょに
坂口を東へ

大坂町六丁目

卷之六

子
林

五

Handwritten signature or name in Arabic script.

永
三

英心

publ. 1800. 1801.

大德

海味酒

Dr. J. H. H. H.

[illegible]

